

Weekly Michael's News

2018年12月10日発行 No.91

<今週の聖句>

『天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼料桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。』

(ルカによる福音書 2:10~12)

<一足早く迎えた KIU クリスマス!! メッセージに、表彰に、祝会に…内容は盛沢山! ?>

先週水曜日の5日、夕方 17:00 より 2018 年度神戸国際大学のクリスマス礼拝が行われました。100 名近い出席者が集い、会場のチャペルはほぼ満員となりました。この時期のお馴染みとなった聖歌を歌い、昨年を引き続いて日本聖公会神戸教区主教 小林尚明師父をお迎えしてクリスマスメッセージに耳を傾けました。また、今年様々な場面で結果を残した学生・諸団体の表彰も行われ、50 周年を迎えた記念すべき時に相応しいクリスマスとなりました!!



多くの出席者を迎えるチャペル



センター長 近藤先生の聖書朗読



小林尚明主教によるクリスマスメッセージ



新理事長に就任された八代先生の祈り



学生表彰も行われました おめでとう!! 更なる高みを目指して…



大盛り上がりのゲーム大会!!



プレゼントをゲット!! やったぜ!!



静かに輝く祝 50th キャンドルライト

＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

12月3日（月）テーマ：「オオカミ少年に気をつけろ」 野間 光顕（チャプレン）

先日、藤倉先生から「最近クリスマスに対するドキドキ感がなくなっている…」と言われイソップ童話の「オオカミ少年」を思い出した。自宅付近のショッピングモールではハロウィンが終わった翌日の11月からクリスマス商戦に向けたアピールが連呼される。2018年を振り返ると、公文書の改竄やデータ捏造、またデマやフェイクニュースが世界中で問題の火種を生んでいる。そんな中、先日理事長職を退任された前田先生は「自分の隣人」に、優しく癒しに満ちた、偽りのない言葉を掛け合う事を求められた。今は救世主降誕を待ち望むアドベントの時。世の混乱の中に現れた主の存在を覚えつつ、共に歩みたい。

12月4日（火）テーマ：「人生の価値」 遠藤 雅己（経済学部）

今日の聖書箇所は、アドベントを迎えながらも敢えてイエスが十字架上で亡くなる所を選んだ。今でこそ救世主と呼ばれているが、彼の歩みを想起する時、それは一般的に思い描かれる救世主像とは全く違う。父親が不明で、ガリラヤという辺境の地で育ち、職業の大工とは今でいう日雇い労働者と同義だ。エルサレムでは罫に嵌められ、弟子たちから裏切られ、侮辱と惨めさの中で十字架につけられ苦しみの絶叫を上げる。しかし、その最期の姿をみたローマ兵が「本当に神の子であった」と告白する。病気を避けるためにDNA操作までする昨今ではあるが、人生の価値、真の評価は痛みや苦しみの中にこそ存在しているのではないだろうか？

12月5日（水）テーマ：「社会人1年目」 八代 祈（附属高校教員）

私は、今年度から神戸国際大学附属高校で、社会科の教員として勤めている。早くも8ヶ月が経ち、毎日の授業での生徒対応は大変だが、色々声を掛け合う中で生まれる生徒との接点、それを通して皆の存在が本当に愛おしく感じられる。先日、ある先生から「自分の看板を持っているか？」と問われた。「あなたにしかない看板をもっと生徒の前で出せば、生徒のモチベーションは下がらないだろう…」まだまだそのような「看板」を自覚できないが、これからも意識をもって試行錯誤していきたい。



12月6日（木）テーマ：「計画的偶発性」 中矢 英俊（経済学部）

キャリアラに役立つ「計画的偶発性」を紹介したい。米国スワース大学（Swarthmore College）のクランボルト教授の提唱するキャリア理論の中に「キャリアの8割は偶然によって決定される」という言葉がある。簡単に言えば、未来より現在を重視し、今を大切に生きる。予期しない事を作り出せるように、周りへの関心を高め、積極的に行動できるよう普段からの姿勢や心構えに意識を置く。そこでは①無関心・無気力ではなく好奇心を、②飽きる・辞めるではなく持続性を、③頑固・硬直的ではなく柔軟性を、④悲観的でなく楽観性を、⑤保守的でなく冒険心を大切にしたい。

12月7日（金）テーマ：「科学の功罪について」 小門 陽（リハビリテーション学部）

ここ最近における科学技術の進歩には目覚ましいものがあるが、それには必ず裏表があるように思う。例えば、アインシュタインのふとした疑問から検証・提唱された「相対性理論」。今から100年ほど前に発見され莫大なエネルギーを生み出す力であったが、それらは戦争によって軍事力に転嫁され、原爆となって多くの人の命を奪う事になった。一方、4つの衛星を使用し、地上の位置情報を確定するGPSは同じ相対性理論によって開発・改良が進められて、私たちの生活を便利にする力を発揮している。原爆とGPS、この2つが指すように科学技術には、幸せと不幸の両面が存在する事を忘れてはならないように思う。（文責：野間 光顕）